



軽防協ニュース速報

2012年第1四半期(1月－3月)の伝染病発生状況

(International Collating Centre からの情報)

2012年6月配信

オーストラリアからの報告提供時期の変更に伴い、同国のレポートは、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。以下に、2011 年第 4 四半期のレポートを記載する。第 4 四半期のために報告された情報であることに注意していただきたい。その後、その他の国の 2012 年第 1 四半期のレポートを通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2011 年第 4 四半期の報告

Animal Health Australia (AHA)

Animal Health Surveillance Quarterly (AHSQ)

<http://www.animalhealthaustralia.com.au/status/ahsq.cfm>

州および準州の報告

オーストラリアでは、動物の疾病管理に関しては、州と準州がそれらの領域内で責任を負っている。国内動物衛生プログラムは動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局 (AHA) によって管理されている。

クイーンズランド州

(雇用経済開発・革新省 グレグ・ウィリアムソンによる報告)

ヘンドラウイルス

第 3 四半期のクイーンズランド州のヘンドラウイルス感染症の症例数は先例のない程多かったが、第 4 四半期は 1 症例のみと比較的平穏であった。10 月上旬、モートンベイ管理区域で、開業獣医師が重度の疝痛馬を安楽死処置とした。この馬の膀胱はかなり拡張していた。サンプルは採取されていなかった。1 週間後、同じ場所でこの獣医師は粘膜の充血、膀胱の拡張、嗜眠および運動失調が見られるもう 1 頭の馬を治療した。この馬は安楽死処置され、採取されたサンプルは PCR にてヘンドラウイルス陽性であった。その後、この場所は検疫下に置かれ、そこにいた感受性の高い動物 (健康に見える 2 頭の馬と 1 匹の犬) に試験プログラムが開始された。しかし、これらの馬の 1 頭は血液サンプルの PCR 検査でヘンドラウイルス陽性であった。この馬は 10 月中旬に安楽死の処置がとられた。安楽死の

際に追加採取されたサンプルの検査では抗体陽転し、ヘンドラウイルス ELISA および血清中和試験陽性であった。残りの検疫期間では発症例はなかった。1 匹の犬と残り 1 頭の馬の検査は 3 回とも陰性となり、検疫は 11 月中旬に解除された。

2011 年、クイーンズランド州では 8 つの管理区域で 10 件のヘンドラウイルス感染症が報告された。内訳は南から北に、シーニックリムで 2 件、ゴールドコーストで 1 件、ローガンで 1 件、ブリスベンで 2 件、モートンベイで 1 件、ウェスタンダウンズで 1 件、フレーザーコーストで 1 件およびテーブルランドで 1 件であった。これは 1994 年から 2010 年にかけてクイーンズランド州で発生した 13 件に匹敵する。39 施設のうち、19 施設が検疫下に置かれ、115 頭の馬に対して毎日検査され、3 回のサンプリング検査が行われた。感受性の高い動物である、21 匹の犬と 2 匹の猫も監視および検査された。この対応は 2011 年 6 月 28 日から 11 月まで継続された。

今年のヘンドラウイルス感染症には臨床症状の多様性が見られた。顕著だったのは、神経症状で、嗜眠や軽度の運動失調から協調運動の欠如や痙攣まで様々であった。

過去の発生時に顕著に見られた呼吸器症状は観察されなかった。

クイーンズランド州バイオセキュリティ当局において実行されたウイルス制圧対策（検疫、検査、監視計画を含む）に加えて、地域や馬飼養者に対してヘンドラウイルスに関する情報を提供することを目的に、大規模な広告キャンペーンが実施された。例えば、フェイスブックやツイッター、ヘンドラウイルスの情報を入手するためのオンライン登録システム、リアルタイムのデータ送受信が可能なオンライン掲示板などに代表される新たな情報伝達手段の導入に関するキャンペーンが行われ、クイーンズランド州内における様々な取り決めを確実にすることが可能となっている。

ダニ麻痺症

10 月にシーニックリム管理区域で 25 頭の馬がダニ麻痺症を発症し、そのうち 22 頭が死亡した。9 月下旬、2～8 歳の馬 25 頭がトゥーウンバ管理区域の施設からおよそ 100km 離れたコーラルビン管理区域の 100 ヘクタール規模の施設に輸送された。コーラルビンの施設にはほぼ 12 ヶ月間家畜はいなかった。10 月上旬、当局は 5 頭の死亡と 3 頭の起立不能について報告を受けた。3 頭の有臨床症状馬は安楽死の処置がとられた。2 頭の剖検では明らかな異常を認めず、ヘンドラウイルス感染症も PCR 検査によって除外された。

10 月を通して馬の死亡は続いた。臨床症状は衰弱、運動失調、嚥下障害（多くの起立不能となった馬の口内は草で満たされていた）、顔面麻痺および下唇の弛緩であった。多くの罹患馬に両側性の散瞳と瞳孔対光反射の消失を認めた。罹患馬は状態が悪化するにつれて横臥姿勢をとり、時折転げ回った。死亡する間際に呼吸困難が始まるまでは、罹患馬に元気と機敏さは残っていた。何頭かは舌の色調は減退していた。すべての馬はやせていなかったが、様々な種のダニ（イクソデス-ホロチクルスを含む）が寄生し、侵襲程度も様々であった。10 月中旬までに生存したのは 4 頭のみであった。これらの馬はダニ駆除薬で治療し、周辺施設へ移動した 7 頭に含まれる。生存した 4 頭ともに臨床症状を認め、2 頭は横臥していた。3 頭はダニ抗血清を投与され生存したが、横臥していた残り 1 頭は感染が重篤で

死亡した。

検査はヘンドラウイルス、殺虫剤、砒素、鉛、シアン化合物、硝酸塩および有毒植物の関連が除外されたものに対して調査期間を通して実施された。ボツリヌス毒素とボツリヌス中毒を引き起こす有機体の存在は、罹患馬と周辺環境の双方から広範なサンプル採取をすることにより除外された。これは現段階で検出されていない毒素の供給源の存在を完全に否定するものではない。

麻痺を引き起こすダニ（イクソデス-ホロチクルス）を原因とする麻痺か否かは、経歴、臨床症状、馬が死亡し始める 1 週間前に重度のダニの寄生が観察されたという信頼できる報告およびダニ抗血清の投与に 3 頭が生存したという事実を根拠に診断された。他の哺乳動物宿主は存在せず、麻痺を引き起こすダニはバンディクートのような土着の小さな有袋類を自然宿主とする。

ニューサウスウェールズ州

報告事項なし。

ヴィクトリア州

報告事項なし。

南オーストラリア州

報告事項なし。

西オーストラリア州

報告事項なし。

タスマニア州

報告事項なし。

北部特別地区

報告事項なし。

2012 年第 1 四半期の報告

アルゼンチン

報告事項なし。

オーストラリア

最初に述べたとおり、2011 年の第 4 四半期の報告については、最初のところに記載され

ている。

カナダ

報告事項なし。

チリ

馬インフルエンザ (EI)

H3N8 型馬インフルエンザの発生が 2012 年 1 月 4 日から 3 月 22 にかけて確認された。48 施設、2140 頭のサラブレッドおよび非サラブレッドパフォーマンスホースが発症した。確定診断は、農業省農牧局において血清診断、ウイルス分離および PCR 検査にて実施された。

デンマーク

報告事項なし。

フランス

(フランスの馬感染症疫学監視ネットワークの RESPE から提供された情報)

馬伝染性子宮炎 (CEM)

オルヌ県において、15 歳のフレンチトロッター種の種牡馬の発症が確認された。2012 年 2 月 3 日に精液サンプルの細菌学的検査により確定診断された。

2012 年 2 月 15 日、サルト県において発症が確認された。罹患馬は 12 歳のフレンチトロッター種の種牡馬で細菌学的検査により診断された。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

14 施設で 15 頭 (13 施設で各 1 頭の発生、ある 1 施設では 2 頭の発生) の発症報告があった。分かっている限りでは、サラブレッド 2 頭、フレンチサドルブレッド 3 頭およびフレンチトロッター 1 頭であった。これらの症例はイル・エ・ヴィレーヌ県、マイエンヌ県、カルヴァドス県、マンシュ県、サボエ県、コート・ダルモール県およびアンドル・エ・ロワール県で発生した。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による神経疾患

2012 年 2 月 9 日から 3 月 21 にかけて、フィニステール県の乗馬施設において EHV-1 の発生が確認された。45 頭が感染し、13 頭が死亡、2 頭の繁殖牝馬が流産した。脳脊髄液の PCR 検査で陽性と診断された。その後、この発生は終息し、関連した発生は確認されていない。

2012 年 3 月 7 日、マンシュ県で EHV-1 の発生が確認された。罹患馬はワクチン未接種のフレンチトロッター種の繁殖牝馬で発熱と神経症状を呈した。血液の PCR 検査で陽性と診断された。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による呼吸器疾患

2012 年 1 月 26 日、セーヌ・エ・マルヌ県で発生が確認された。罹患馬は種牡馬でワクチン接種を受けていた。臨床症状は発熱と発咳であった。鼻汁スワブの PCR 検査で陽性と診

断された。

2012年2月27日、パリで発生が確認された。罹患馬は15歳のフレンチサドルブレッドの牝馬で、レジャー用として使用されていた。臨床症状は発咳、鼻漏および発熱で鼻汁スワブのPCR検査で陽性と診断された。

2012年2月29日、ヴァル・ド・マルヌ県の乗馬施設において発生が確認された。罹患馬は8歳でワクチン未接種のフレンチサドルブレッドの牝馬であった。臨床症状は鼻漏と発熱であった。鼻汁スワブのPCR検査で陽性と診断された。

EHV-1による呼吸器疾患の発生は、マンシュ県で2012年3月7日に確認された。罹患馬は純血牝馬で繁殖用に用いられていた。鼻汁スワブのPCR検査で陽性と診断された。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

10症例が報告され、4頭がフレンチ Trotter であった。発生場所はカルヴァドス県、セーヌ・エ・マルヌ県、サルトル県、マンシュ県、エソンヌ県、ウール県、ヴァル・ド・マルヌ県、エロー県およびシャラント・マリタイム県であった。

馬伝染性貧血 (EIA)

ヴォクリューズ県で2件のEIA発生報告があった。1件目は2012年2月1日のアラブ種1頭、2件目は2012年2月8日のアラブ種4頭の感染であった。両者とも血清学的に診断され、罹患馬は安楽死の処置がとられた。移動制限および疫学調査が実施された。現在のところ、2件の発生に関連があるかは明らかではない。

馬インフルエンザ (EI)

2012年1月5日、オルヌ県のトレーニングセンターでEIが発生した。罹患馬はワクチン接種された4歳のフレンチ Trotter 種の牝馬で臨床症状は発熱、発咳および鼻漏であった。鼻汁スワブのPCR検査により診断された。合計4頭が感染した。

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

2012年1月31日に、アルデシュ県にて発生の報告があった。繁殖用途の馬20頭が感染し、血清学的診断によって陽性が確認された。フレンチサドルブレッド種1頭がPCR検査によって確定診断された。感染症に対する防疫体制に関する詳細は不明である。

2012年2月21日に、カルヴァドス県で発生が確認された。罹患馬はアラブ種の3歳牝馬でPCR検査により診断された。

馬ピロプラズマ病

フランスでは、風土病として存在している。

ウエストナイルウイルス感染症は報告されていない。

ドイツ

報告事項なし。

Dr. Boese 研究所有限公司 (HBLB の CEMO 認定研究所) による検査結果

馬伝染性子宮炎 (CEM)

アイスランドの牝馬 1 頭が感染し、陰核スワブからの菌分離および PCR 検査により診断された。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

6 頭が感染し、PCR 検査により診断された。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による呼吸器疾患

2 頭が感染し、PCR 検査により診断された。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

4 頭が感染し、40 度以上の高熱、鼻漏および発咳を呈した。PCR 検査により診断された。

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

1 頭のウォームブレッド種牡馬が感染し、ウイルス分離および精液検体の PCR 検査により診断された。

香港

報告事項なし。

アイルランド (共和国)

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

4 症例がレンスター地方の 1 施設で確認された。これらの馬は DuvaxynEHV-1, 4 ワクチン接種済との報告があった。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

第 1 四半期は 26 頭の発生が確認されたが、発生地域の内訳は以下のとおりであった。キルデア州 (12 症例)、ウエクسفورد州 (6 症例)、リムリック州 (4 症例)、リーシュ州 (1 症例)、カーロー州 (1 症例)、ウォーターフォード州 (1 症例)、ラウズ州 (1 症例)。

イタリア

痘疫

2012 年に入り、更なる発生は報告されていない。

ウエストナイルウイルス (WNV)

2012 年に入り、更なる発生は報告されていない。

馬伝染性貧血 (EIA)

第 1 四半期に 14 症例の報告があった。11 頭が馬で 3 頭がラバであった。1 症例は北東イタリア (ヴェネト)、他の 13 症例は中央イタリア (ラツィオ、ウンブリア、アブルツォ) もしくは南イタリア (カンパーニア、バジリカータ、プーリャ) での報告であった。地域によって毎年もしくは 2 年ごとの血清学的検査が義務付けられている。

日本

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

15 施設で 21 頭のウマが感染し、最初の報告は 2012 年 1 月 13 日、最終報告は同年 3 月 30 日であった。北海道日高家畜保健衛生所および釧路家畜保健衛生所において、ウイルス分離により確定診断された。発生は限局的で、感染馬 21 頭中、20 頭はワクチン接種がされていたサラブレッド種で、1 頭はワクチン未接種の重種馬であった。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

2012 年 3 月 21 日に 1 件発生した。感染馬はワクチン未接種の重種 1 頭であった。北海道十勝家畜保健衛生所において、ウイルス分離により確定診断された。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ共和国

報告未着。

韓国

報告事項なし。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

報告未着。

スイス

ウマヘルペスウイルス感染症 (EHV-1)

2012 年 2 月に限局的だが、症状は重篤な EHV-1 感染症が発生した。1 施設で 2 頭の非サラブレッド種繁殖牝馬が感染した。診断施設はベルン大学で臨床症状と蛍光抗体法による死後診断で確認された。この施設の経過は 1 頭が 2012 年 2 月に流産し、死後の免疫沈降法により陽性が確認された。2 週間後の 3 月にはもう 1 頭の繁殖牝馬が衰弱した仔馬が生んだが、3 日以内に肺炎を発症した。仔馬は 2 日後に安楽死処置となり、死後検査により EHV-1 と診断された。しかし、4 週間後には健康な仔馬が誕生し、流行は終息した。

馬ピロプラズマ病

2012 年 1 月にスイス西部で限局的な発生が認められ、3 施設で 3 頭の非サラブレッド種

が感染した。2月の報告が最後の症例で、血清学的検査により診断された。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦

馬ピロプラズマ病 (*Theileria equi*、*Babesia caballi*)

アラブ首長国連邦では、馬ピロプラズマ病は風土病であり、定期的に症例報告がある。ドバイの中央獣医学研究所 (CVRL) において血清学的検査および病原体の分離によって確定診断が行われる。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

1 症例報告があった。

サルモネラ症

2 症例の報告があり、細菌学的検査により診断された。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第 1 四半期中の臨時報告としてすでに発表していることに注意されたい。

アメリカ合衆国

馬インフルエンザ

第 1 四半期の発生報告はわずかであった。ケンタッキー州でのみ発生が確認されているが、限局的で重篤な呼吸器症状も認めなかった。

腺疫

腺疫の発生が細菌培養や PCR 検査で確認され、発生地域はケンタッキー州 (1 症例)、メイン州 (数ヶ所の発生)、ニューヨーク (サラトガ競馬場の 2 厩舎で 14 頭以上の比較的大規模の発生) であった。

以前報告したように、腺疫は多くの州で報告義務が課せられていないため、今回の報告は全米中の発生総数を必ずしも反映していないと思われる。

ウマヘルペスウイルス感染症 (EHV)

ケンタッキー州の数施設で呼吸器型の EHV-1 感染がウイルスおよび血清学的診断により確認された。また、EHV-1 に関連した流産も、ケンタッキー州 (9 症例) とウィスコンシン州 (1 症例) で確認された。神経型の EHV-1 感染も数例報告があり、それらの全てはカリフォルニア州 (オレンジ郡、リバーサイド郡、モントレイ郡、サンディエゴ郡およびロサンゼルス郡) での発生であった。全ての症例の中で、神経型の EHV-1 の頻度は死亡率と同様に低かった。発生の大部分は神経病原性に関係するウイルスポリメラーゼ遺伝子の点突然

変異を欠く EHV-1 ウイルス株に関連があった。呼吸器疾患に関連する EHV-2 の感染症例は、ケンタッキー州（14 症例）、ニューカロライナ州（2 症例）で見られた。EHV-3 の感染症例はケンタッキー州（2 症例）で見られた。EHV-5 の感染症例はケンタッキー州（11 症例）、オハイオ州（1 症例）であった。

レプトスピラによる流産

2011 年第 4 四半期に、ケンタッキー州において確認されたレプトスピラによる流産に加えて、さらに 27 症例が 2012 年になってから蛍光抗体法により診断された。

サルモネラ症

ケンタッキー州で数例のサルモネラ症が確認された。そのうち 4 頭は非典型的なサルモネラ菌、1 頭はサルモネラ B 群、2 頭はサルモネラ C1 群による感染であった。

ローソニアによる腸症

2012 年第 1 四半期は、ケンタッキー州において仔馬 4 頭が *L. intracellularis* による腸症と診断された。

クロストリジウム腸炎

C. perfringens typeA が関与した 2 頭の腸炎症例がケンタッキー州で報告され、PCR 検査により診断された。

ボツリヌス中毒

インディアナ州の 1 施設でボツリヌス中毒（型不明）の発生が確認された。10 頭が感染し、5 頭が死亡、5 頭が治療により良化した。毒素への暴露は汚染された飼料の摂取によるものと推測された。馬群に対するワクチン投与がされたかは定かではないが、おそらく実施していないだろう。

狂犬病

テネシー州で 2 頭の馬に認められ、2 頭はそれぞれ別の郡での発生であった。2 頭ともウイルス株はスカンクのものと同類縁であった。暴露の経路もワクチン経歴も不明であった。

馬単球性エールリヒア症 (EME)

ケンタッキー州で EME（ポトマック熱）1 症例が確認された。

ノカルディア型胎盤炎

ケンタッキー州で 10 症例、フロリダ州で 1 症例確認され、2011 年（原文は 2012）より少なかった。

ベネズエラ

報告未着。